

令和2年度

学校評価結果報告書  
(中間評価)

広島県立廿日市高等学校

定時制課程普通科

# 目 次

- 1 令和2年度自己評価シート(中間評価) (様式 2) ……1
- 2 令和2年度自己評価シート(中間評価まとめ) (様式 3) ……4
- 3 令和2年度学校関係者評価シート(中間評価) (様式 6) ……5

## 令和2年度自己評価シート(中間評価)

校番	15	学校名	広島県立廿日市高等学校	校長氏名	藤本 寅肇	全・定・通	本・分
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 生徒に基礎的な知識と教養を身に付けさせ、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成する。				
廿定の学びの変革を推進する。 ・実態に応じた学習指導を工夫し、学習意欲を喚起する ・生徒が主体的に参加する授業をめざした授業改善を進める。 ・基礎・基本の定着を図り、生徒の理解度を高める。	・教科指導に係る年間テーマを設定する。さらに授業における学習内容を明確にするとともに、授業規律を徹底し、全教職員が共通認識をもって組織的な授業改善を進める。 ・授業改善に関する研修会を年4回実施し、進捗状況を点検する。	A	・授業改善に関する研修を3回行った。 ・授業評価アンケートでの肯定的評価の割合が83%であり目標値70%を上回っている。 ・積極的参加は75%であり目標値70%を上回っている。	教務部
	・すべての生徒にとってわかりやすく、興味が持てる授業を行うために、特別支援教育の観点を取り入れた授業改善を行う。	A	・1学期期末試験での目標基準点通過者の割合が37%と目標値を上回った。	教務部
	・基本的な生活習慣の確立をめざし、集団生活を営むための好ましい行動を育成する。 ・個別の指導計画を作成し、きめ細かな指導を行うとともに指導方法に対して共通理解をもつ。 ・カウンセラーや特別支援教育巡回相談員との連携を密にとり、個に応じた教育を支援する。	B	・学校生活アンケートにおいて、「私は廿日市高校定時制課程に入学して良かったと思う。」は82%であり、目標値90%を下回っている。	保健部
進路指導の内容を充実させ、好ましい職業観・勤労観を培い、生徒の進路希望を実現させる。	・総合的な探究の時間、総合的な学習の時間において、進路目標実現に向け、知識・見識を広めるとともに、主体的に判断し、問題を解決する能力を育成する。 ・各学年のLHRにおいて、系統的で実践的な進路指導を行うとともに、面接を通じて生徒の進路意識を高め、組織的な進路指導を徹底する。 ・就職支援教員(JST)との連携を図り、効果的な就職支援を充実させる。	B	・学校生活アンケートの肯定的評価の割合は目標値75%に対し、「進路LHRで進路に関する意識は前向きになった。」56%、「先生方は自分の意見や相談ごとをよく聞いてくれる。」85%であった。	進路指導部

### 【評価結果の分析】

#### ①廿定の学びの変革を推進する。

(目標:授業評価アンケートでの肯定的評価の割合70%、積極的参加についての肯定的評価の割合70%、定期試験での目標基準点通過者の割合35%)

1学期に13の項目について「授業評価アンケート」を実施した。トータルで肯定的評価の割合は83%であり目標値70%を大きく上回った。さらに、積極的参加に関する肯定的評価の割合は75%であり目標値70%を上回った。一方新型コロナウイルス感染症対策での臨時休業の影響で、友達との交流が例年よりできていない1年生の「授業でわかったことを友達と教え合っている」という項目での肯定的評価が特に減少している。

「わからないところは先生や友達に質問する」	71% (92%)	} 75%
「授業でわかったことを友達と教え合っている」	63% (84%)	
「プリント・実習・実技など、授業に積極的に取り組んでいる」	92% (97%)	

○7月実施の「授業評価アンケート(一部抜粋)」結果での授業のわかりやすさと積極的参加についての肯定的評価の割合(昨年同期)

定期テストの目標基準点通過者の割合は、1年生の通過者が50%と増加し、全体では6ポイント増加した。

今年度は定時制の「学びの変革」の推進に向けて、協働的な学びについて、全教職員で共通認識をもって取り組んでいる。生徒の多くは自己肯定感が低く、コミュニケーションを苦手としているが、授業に8割の生徒が積極的し、定期テストの目標基準点通過者も増加していることを評価し、今後につなげていく。

②生徒一人一人に応じた教育支援を行う。

(目標:学校生活アンケートでの本校入学への肯定的評価の割合 90%)

欠席や遅刻、早退が多い生徒がいることが課題になっている。そのため生徒連絡会を4回実施して、新入生及び配慮の必要な生徒の課題や指導方法について共通理解を行った。スクールカウンセラーの活用については、今年度初めて、1年生全体への指導と生徒全員に対して個別の教育相談を実施した。その取組から、スクールカウンセラーへの相談につながったケースもある。さらに、「廿定の様々な事例における生徒対応の仕方について」という演題で、スクールカウンセラーによる職員研修を7月に実施した。

③進路指導の内容を充実させ、好ましい職業観・勤労観を培い、生徒の進路希望を実現させる。

(目標:学校生活アンケートでの本校進路指導に対する肯定的評価の割合 75%)

生徒との面談・ミニヒアリングの機会を最重要視し、生徒のモチベーションを上げることを意識して進路指導部としての業務を行っている。今年度は就職支援教員(JST)が週1回の勤務となったことにより、JSTと生徒の面談も毎週いずれかの生徒と行うなど、回数・機会ともに増加した。今年度より進路指導室は教員が常駐しており、生徒が訪問しやすい環境整備に努めている。初回のJST面談の前には、進路指導主事と生徒による面談を実施したり、全教員が情報共有できる進路指導の個別カルテを随時更新したりしており、JSTや担任との連携も密に行っている。学校生活アンケートの「先生方は自分の意見や相談ごとをよく聞いてくれる。」85%という数値は、以上のような取組に起因していると考えている。

【今後の改善方策】

①第4回研修会では、中間評価の結果を基に授業の工夫、生徒の様子などについて意見交換を行う。質問したり、教え合ったりするような協同的な学習を今後も粘り強く継続して推進する。生徒のアンケートに対する回答の課題はあるが、全ての生徒にとってわかりやすく、生徒が積極的に参加する授業を目指して、廿定版学びの変革アクションプランに基づいた具体的な取組をより一層推進する。

②本校の生徒の健康課題(喫煙・食事・睡眠等)について、LHRでの指導を継続するとともに、個別指導を丁寧を実施する。

日常の生徒対応、担任の面接、保健室からの情報を全教職員で共有し、組織的に指導する。

③2学期の後半を目途に、3年次生(三修制はすでに実施)から順次、進路指導主事及びJSTとの面談機会を設定する。本校定時制において、最重要視すべきは生徒との面談機会の充実であると考え。面談を通して、生徒にとって個別最適な進路指導が行えるよう取組を進める。

全体指導では、今年度作成した進路ロードマップを活用しながら、見通しをもった計画を立案・実行する生徒を育成できるよう、進路指導部及び担任が一体となって取組を進める。

2 生徒の豊かな人間性、創造性を培うとともに、健やかな身体を養う。				
生徒が充実感や達成感を味わい、自信と意欲を高める。	生徒会執行部を中心とした企画・運営を充実させる。	C	部・同好会所属生徒の割合は21%で目標値40%を下回った。	生徒指導部
		D	学校行事を実施していないため。	
健康、安全、環境美化に対する意識を高め、規範意識を育成する。	・LHR等で自分の命や健康を大切にすることを推進する。 ・年間6回大掃除を実施するとともに日常生活において身の周りの美化意識を高める。	B	「学校生活アンケート」において自分の身の周りの整理整頓に心がけている。」の問いでは74%の回答で、目標値の80%を下回っている。	保健部
働き方改革を意識して、教職員が業務改善に取り組んでいる。	・各教職員が可能な所で業務改善を図り、生徒と向き合う時間が確保できるようにする。 ・定時退校日以外の日においても、出勤は12時以降とし、遅くとも22時10分には退校する。	A	定時退校日の定時退校率100%以上が21日である。	管理職

【評価結果の分析】

①生徒が充実感や達成感を味わい、自信と意欲を高める。

(目標:部・同好会所属生徒の割合 40% アンケート学校行事に対する肯定的評価の割合 90%)

・充実感や達成感を味わい、自信と意欲を高める活動の評価指標:部活動加入率、目標値40%に対して実績値21%(8人/39人 9月末現在)。部・同好会活動は、時間的な制約もあり、活動への参加は難しいが、1年生も入部し意欲的に取り組んでいる。

・評価指標:学校生活アンケートでの学校行事参加者の行事に対する肯定的評価の割合、目標値90%。例年1学期に実施している生徒交流会を新型コロナウイルス感染症対策のため実施しなかった。

②健康、安全、環境美化に対する意識を高め、規範意識を育成する。

(目標:学校生活アンケートでの社会規範に対する肯定的評価の割合 80%)

新型コロナ感染症の予防の観点からも身の周りの美化意識については、折にふれ指導している。ゴミの捨て方、各自の机周りの整理整頓等少しずつ定着してきている。また、1年生では積極的に放課後に毎日教室掃除をしてくれる生徒もいる。

③定時退校日の定時退校率 100%の日数

評価指標として、定時退校日の定時退校率 100%以上の日数を年間 35 日としている。9月時点で 21 日となっており、順調にいけば目標は達成できる。

【今後の改善方策】

- ①2学期に文化祭・生徒交流会を生徒会執行部が中心となり実施する。
- ②自分の身の周りの整理整頓について、習慣化できるように指導していくとともに、学期毎の大掃除についてもできるだけ生徒が参加できるように指導していく。
- ③2学期からも継続して、各教職員が日々の業務で工夫しながら業務改善を図りその取組を全体で共有していき、定時退校日以外の日も 22 時 10 分には全員が退校できるようにしていく。

3 地域に信頼されるとともに、地域連携を通じて教育効果を高める。				
地元中学校や地域の関係諸機関との連携を深め、地域の教育力を活用する。	地元中学校や地域の関係諸機関との連携を密にとる。	C	・地元中学や地域の関係諸機関への訪問回数及び来校回数は 18 回である。	管理職 各分掌等
地域等への情報発信を行う。	学校の情報を適宜HPで紹介する。	B	・HP の更新回数は 27 回 昨年同様であるが、生徒の活動の情報が少ない。	教務部

【評価結果の分析】

- ① 地元中学校や地域の関係諸機関との連携を深める。  
(目標： 地元中学や地域の関係諸機関への訪問回数及び来校回数 35 回)  
新型コロナウイルス感染症対策のため医療関係の連携は増加したが、学校行事等が中止になり関係諸機関の連携は減少した。
- ② 地域等への情報発信を行う。  
(目標： HPの更新回数 35 回)  
9月の時点でHPを 27 回更新している。コロナウイルス感染防止対策のために緊急連絡や案内の発信が 15 回(昨年度1回)と増加した。  
今後は、生徒の活動の情報の発信を一層進めていく必要がある。

【今後の改善方策】

- ①新型コロナウイルス感染症対策は継続していくとともに、学校行事等の教育活動を地域と連携して進めていく。
- ②2学期から学校行事を実施する中で、「廿定通信」などにより生徒の活動をできるだけタイムリーに紹介していく。

## 令和2年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	15	学校名	広島県立廿日市高等学校	校長氏名	藤本 寅肇	全・ <input checked="" type="checkbox"/> 定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	-------------	------	-------	--	---

## 1 評価結果の分析

概況 全体の評価(指標数 11) A(3) B(4) C(2) D(1) 未実施(1)

## 1 生徒に基礎的な知識と教養を身に付けさせ、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成する。

## 【成果】

・今年度進路指導部がロードマップを作成した。これにより見通しをもった計画を立案・実行する生徒を育成できるよう、進路指導部及び担任が一体となって取組を進める体制ができた。

## 【課題】

・研修会等で、中間評価の結果を基に授業の工夫、生徒の様子などについて意見交換を行い、質問したり、教え合ったりするような協働的な学習を今後も粘り強く継続するとともに、一人1台パソコン導入に向け校内研修等をして活用方法を検討していく必要がある。  
・本校の生徒の健康課題(喫煙・食事・睡眠等)について、LHRでの指導を継続するだけでなく、組織的な個別指導を実施する。

## 2 生徒の豊かな人間性、創造性を培うとともに、健やかな身体を養う。

## 【成果】

・新型コロナウイルス感染症の予防の観点からも身の周りの美化意識については、折にふれ指導している。入口付近に健康観察用の受付を設置し、ゴミの捨て方、各自の机周りの整理整頓等少しずつ定着してきている。特に、1年生では主体的に放課後に教室掃除をする生徒がいる。  
・教職員一人一人が業務改善を図り、生徒と向き合う時間が確保できるように取組を進めている。相談室や進路指導室等も過ごしやすく整理し、生徒の面談や来客対応を落ち着いてできる環境となった。

## 【課題】

・2学期の文化祭等の学校行事では、生徒会だけでなく、他の生徒にも実行委員を募り学校全体として盛り上げていきたい。  
・自分の持ち物の整理や管理等、折にふれて根気強く指導しているが、校舎周辺にゴミが落ちていることがある。

## 3 地域に信頼されるとともに、地域連携を通じて教育効果を高める。

## 【成果】

・新型コロナウイルス感染症対策のため、医療機関と積極的に連携し専門的なアドバイスによる対応ができた。  
・9月の時点でHPを27回更新し、緊急連絡など学校の情報をタイムリーに紹介した。

## 【課題】

・新型コロナウイルス感染症対策は継続していくとともに、学校行事等の教育活動を地域と連携して進めていく。

## 2 今後の改善方策

- ①ICT機器を活用し、指示の説明を簡潔にしたり、具体的でわかりやすい教材を提示したりする。またグループで自分の考えを説明したり、人に教えたりする協働的な活動を今後も粘り強く継続して推進する。
- ②廿日市特別支援学校や大学等と連携し、生徒の対応について全教職員が共通認識を持てるように研修会を実施する。
- ③進路ロードマップを活用し、進学・就職試験で、合格を勝ち取るまで根気強く努力するよう指導を継続する。進学希望者には、細かな声掛け等で出願日程などのスケジュール管理を援助する。
- ④本校の生徒の健康課題(喫煙・食事・睡眠等)について、LHRでの指導を継続するとともに、個別指導を丁寧に実施する。さらに日常の生徒対応、担任の面接、保健室からの情報を全教職員で共有し、組織的に指導する。
- ⑤校務支援システムを有効に活用するとともに、2学期からも継続して、各教職員が日々の業務で工夫しながら業務改善を図る。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- ①新型コロナウイルス感染症対策が引き続き求められる状況にあっても、地域と連携した学校行事等の推進や廿定通信による発信などの取組を継続する。
- ②生徒一人一人に応じた教育支援の取組推進のために教育相談体制をさらに充実させることと働き方改革の推進をバランスよく進める。

## 令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和2年10月31日

校番	15	学校名	広島県立廿日市高等学校	校長氏名	藤本 寅肇	定時制	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-----	----

《学校関係者評価基準》 A:とても適切である B:概ね適切である C:あまり適切でない D:全く適切でない N:判定できない

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に基礎的な知識と教養を身に付けさせ、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成する、生徒の豊かな人間性、創造性を培うとともに、健やかな身体を養う、地域に信頼されるとともに、地域連携を通じて教育効果を高める、という3つの学校経営目標のもとに、8つの細分化された達成目標、9つの具体的な行動計画と10の指標の設定は、廿日市高校定時制の生徒・教職員の本年度の方向性を明確に指し示すものとし堅実的確なものと判断する。</li> <li>○進路希望の実現を重視した目標、指標となっている。地元中学校との関係を意識していることは評価できる。</li> <li>○学習意欲の喚起、授業改善の試み、生徒の理解度の向上、進路指導の充実、生徒会活動を通じた学校生活充実体験への試み、LHRでの命・健康を大切にする試み、地域連携の試み等が適切に計画されている。</li> <li>○現状より少し高めの数値による指標を設定し、達成度が具体的に把握できるのがよい。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○9つの具体的な行動計画と10の指標に対して、中間時点での自己評価として、A評価が3項目、B評価が4項目、C評価が2項目、D評価が1項目となっている。D評価の1項目は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、学校行事が実施できなかったことに起因するものであることから、この項目はD評価と言うよりも評価見送り扱いでも良い。</li> <li>○指標に照らして適切に評価されている。</li> <li>○基礎的な知識と教養を身につけさせる取組については、授業改善に関する研修等を通して、授業アンケートや期末試験等の評価が目標値を上回る達成状況をベースに適切な評価が行われている。豊かな人間性、創造性、健やかな身体を培うことや地域連携についても、未達成部分はありながらも適切な評価が行われている。</li> <li>○ほとんどの項目について、具体的な数値でもって進捗状況を確認しているのがよい。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中間時点での自己評価でA評価となっている3項目について、授業評価アンケートでの肯定的回答の割合や1学期期末試験での目標基準点通過者の割合、定時退校率ともに目標値を上回っていることは取り組みの適切さを表す数値となっている。B評価の4項目についても、目標値と同じか若干下回った実績値であることから年度末にむけての取り組みの進展に期待もてる。</li> <li>○授業の肯定的評価の割合は、目標値は達成しているが昨年度比で若干下回っている。授業の積極的参加の肯定的割合が下がっており、生徒の自己肯定感の低下傾向が見られる。引き続き、生徒一人一人に応じた教育支援の取組が必要である。</li> <li>○取組は目標に向けた適切な取組だと評価できる。</li> <li>○具体的で簡潔明瞭に書かれているのがよい。成果が出ていない項目については、取組の改善も検討するとよい。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価結果の分析については、アンケートや定期テストの目標基準点、定時退校率などの数値的な検討と考察も確実にに行われていることから適切な取り扱いが進められていると判断する。</li> <li>○教師の生徒に対する傾聴姿勢が進路指導の評価に表れている。</li> <li>○コロナ禍によるイレギュラーな状況はある。その上で概ね適切な評価分析が行われている。生徒一人一人に応じた教育支援についてや進路指導については、大変積極的な対応が見られ、学校生活アンケートの肯定的評価の割合も高く、結果はより高く評価できるものと考えられる。</li> <li>○アンケート等の根拠をもって分析しているのがよい。一部の項目については、今後の取組に反映させるためにも、数値結果だけでなく数値の意味を解釈できるとよい。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中間時点での自己評価と分析の結果に即した今後の改善方策が的確に示されている。中間評価の結果を基に授業の工夫や生徒の様子などの意見交換の場となる第4回研修会の実施、進路指導主事及びJSTとの面談、生徒会執行部が中心となる文化祭・生徒交流会などに加えて、新型コロナウイルス感染症対策が引き続き求められる状況にあっても、地域と連携した学校行事等の推進や廿定通信による発信などの今後の取り組みにも期待ができる。</li> <li>○コロナ対応の感染防止対策はしっかり行われている。教育相談体制をさらに充実させることと働き方改革の推進をバランスよく進めて欲しい。</li> <li>○LHRのテーマを明確化し、LHRで学ぶことの内容を絞ってシラバスを上げてより目的意識をもった強化をはかるべきか検討する必要がある。地域連携に関しては連携アクションを数値化(諸機関への訪問回数や通信の配布回数、HPIに掲載の更新回数と予定の決定)等の改善を行う必要がある。</li> <li>○取組の方向性が、具体的にわかるのがよい。</li> </ul>

総合評価	A	<p>○進路指導部の作成によるロードマップによる見通しをもった計画を立案・実行する生徒の育成や、美化意識、教職員の業務改善など、堅実ながらも積極的な取り組みが、廿日市高校定時制では確実に進展中であることを高く評価する。今後の年度末にむけても新型コロナウイルス感染症の影響下で難しい社会状況は続くが、このような中で、廿日市高校定時制の生徒と教職員の皆さんの着実な取り組みが大きな成果へと結実することを期待する。</p> <p>○社会に貢献できる生徒の育成を続けていただきたい。また、廿日市中学校の卒業生にも丁寧な指導をいただいていると思う。</p> <p>○定時制の生徒が県大会で発表するまでの力を付けていることは素晴らしいことです。4年生は、リーダー的な存在になるような後輩を育ててほしいと思います。生徒のコミュニケーション能力、自己肯定感が低いことなどの課題があることから、はじめの段階は、生徒会執行部が主体的に考え、活動できるように、先生方で生徒をしっかりサポートしてやってください。きっと生徒たちだけでは難しいと思います。</p> <p>○定時制には欠かせない地域との連携ができない現状に厳しさを感じますが、よくやられていると思う。</p> <p>○概ね適切な学校運営ができているものと評価する。生徒それぞれの人間性や創造性等に関わる部分は、取組の難しさがあるが、それに取組を行う積極性、地域連携の試み等その達成状況は別として、チャレンジしていることに対して評価できる。</p> <p>○指標をもって丁寧に取り組み、分析できているのがよい。今後も教職員が目標や取組の共有化を図り、目標達成に向けて意識的・組織的に取り組んでいただきたい。</p>
------	---	---